

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472400308
法人名	医療法人 掬水会
事業所名	グループホーム しんまち
所在地 (電話番号)	宮城県亶理郡渡里町字新町41番9 (電話) 0223(32)8507
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 9 月 18 日

【情報提供票より】19年9月4日作成)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8

(2)建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2007/9/4現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	5 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名	
要介護3	3 名	要介護4	1 名	
要介護5	4 名	要支援2		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	板橋胃腸肛門科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から歩いて5分閑静な住宅地にデイサービスと同一敷地内にグループホーム「しんまち」がある。ホームの前には、入居者のかかりつけ医であるクリニックがあり 24 時間対応している。近所には散歩しながら買物が出来る商店街がある。又散歩コースには、個人の立派なお庭がありよく迎えて休ませて頂いている。ホームには歌の好きな入居者がいて、よく皆をリードし明るい合唱が聞こえてくる。職員は理念である「笑顔で楽しく寄り添って自分らしく、ともに輝いて」をケアのなかに活かしている。対人サービスとして職員は自己研鑽に努め、殆どの職員が介護福祉士の資格をもっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の要改善点は、誠意を持って対応し殆どが改善されている。①玄関には花や木を増やしており明るい雰囲気になっていた。②ケアプランは、センター方式を皆で学習し具体的な内容になっていた。③入居者については、出来るだけ持っている力を引き出し、出来る事はお願いしている。④栄養上の管理は、デイサービスの栄養士の指導助言を頂いている。⑤相談苦情については、第三者委員に民生委員を委嘱した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、自分たちの日頃のケアの内容を点検するよい機会として、全員参加で評価項目1項目ごとに話し合い、管理者が最後にまとめられたものである。「サービス成果」に関する項目No88~No100については謙虚に自己採点をされていた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は4ヶ月に1回位のペースで開かれている。会議ではホームから入居者の状況、月例行事、日常生活について説明があり、委員との質疑応答が議事録に記載されていた。運営推進会議は地域密着型事業所の基本となる会議であり、おおよそ2ヶ月に1回の開催が望ましく、委員には入居者も出さるだけお願いしたい。会議での委員の方々の助言や知恵工夫等をサービスの質の向上に活かして頂きたい。又、議事録を関係者に公開し、地域の住民のホームに対する理解と協力を広めて頂きたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談苦情は、サービスの質の向上にとって貴重な情報である事を、管理者もよく理解しており玄関にご意見箱などを設置している。家族アンケートによれば、「相談したい事があれば内容をよく聞いて直ぐに対応して頂いている。」一方で「感謝はしていますが個別ケアをよろしく願いたい。」とある。家族の意見等よく聞かれるように第三者委員として地区の民生委員が委嘱された。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型サービス事業所として、地域住民との交流の下にホームは、入居者の生活支援をする事になった。これは地域の一員として地域に少しでも貢献し、地域の皆さんの理解と協力を得て欲しいと言う事が基本になった。ごみ収集場所を提供したり、災害時の避難場所になったりして交流の輪を広げている。地域の行事にも積極的に参加し、更に交流の輪を広げて頂きたい。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所になったことは、職員もよく理解していた。「笑顔で楽しく寄り添って共に輝いている。」と理念にあるように地域住民と共に頑張っている。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向かって特に意識して居る事は、「笑顔と笑い」を忘れない事であると、管理者も職員も話してくれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域の為に少しでも貢献したいと「ごみ収集場所」を提供したり、災害時の地域の「避難場所」になったり、そこから地域との交流の輪が広がっているが、尚一層、ボランティアの訪問などの交流もお願いしたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自分たちの日頃のケアの内容を、点検するよい機会ととらえ職員全員が参加し、評価項目一つひとつを皆で話しあった。前回の外部評価の改善点については殆ど改善されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、4ヶ月に1回位のペースで開催されているが、委員に入居者はいない。会議では管理者から利用状況、月例行事、入居者の日常生活等の説明があり、委員との質疑応答が議事録に記載されていたが、運営推進会議をより充実して頂きたい。	○	基準省令にもあるように、出来るだけ運営推進会議を2ヶ月に1回はお願いしたい。又、出来れば入居者の代表も委員にお願いしたい。各委員の助言や知恵工夫等を、サービスの質の向上に活かして頂きたい。尚、議事録を関係者に公開し、地域住民のホームに対する理解と協力の輪を広げて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型事業所として指定した町とは、今まで以上に情報交換を密にしている。グループホームは、在宅の認知症ケアの拠点であり社会資源でもあるので、町の具体的な事業にも協力をお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化や金銭の使いみちなどは定期的によく報告されている。ただ職員の異動の時は連絡がない。家族との馴染みの関係も、大事にして頂きたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情はサービスの質の向上にとって貴重な情報である事は管理者もよく理解している。去年は苦情や相談の窓口でもある第三者委員がいなかったが、今年は地域の民生委員を委嘱されていた。家族には繰り返し第三者委員について紹介をして頂きたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症高齢者にとって安心して生活するためには、職員との馴染みの関係は大切である。出来るだけ異動は少なくしているが、どうしても異動がある場合には、入居者の情報を管理者を通して引き継ぎをしている。担当が替わっても違和感のないケアの継続をお願いしたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの資質の向上は基準省令の義務条項である事を管理者はよく理解して研修計画をたてている。特に認知症ケアの技術や身体拘束等の研修は力を入れている。又、資格取得にも支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、協議会の研修にも参加している。また地域のグループホームの事業所とも交流し、見学会や情報交換等にも参加し、勉強したり職員のストレス解消にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が家族にグループホームに入れられたという思いを、出来るだけ少なくする様、入居前に職員も家族も本人とよく話し合い、またホームに来て貰い、よく見て頂き雰囲気になんとも馴染むようお願いしたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、まだまだ能力を有している。お正月の七草粥を作る時の唄や、家庭菜園の肥料や苗の植る時期など、一緒に作業しながら教わる事が多い。今年はトマトや茄子の収穫もよく、入居者に感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向など、出きるだけその人になりきれるよう、その人の情報を把握し整理し共有し活用する事が基本である。その為に、認知症介護研究研修東京センター方式を管理者を中心に職員も勉強しながら本人本位のケアに勤めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアの核である介護計画は本人の意思や思いをセンター方式で把握し、家族とも相談し介護計画に活かせるよう努力されているが充分とは言えない。	○	家族に介護計画の大切さを理解して頂き、積極的に介護計画の作成に参加されるよう働きかけ、意見やアイデアを反映させるようお願いしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の生活の中で寄り添ってケアをしており、状態の変化があればその都度、変化がなくても3ヶ月に1回は介護計画の見直しをしている。又、退院時のように状態の変化があれば、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型サービス事業所としてグループホームも小規模多機能なサービスが期待される。送迎や通院の支援も、出来る範囲で柔軟に対応している。又、今後条件が許せば、デイサービスやショートステイも検討して頂きたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、全員向かいの「クリニック」であり、24時間体制で何時でも支援してくれる。必要な時は、それぞれ専門医を紹介して頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで長年の生活が続き馴染みの関係が出来、人生の最後もこの住みなれたホームを希望された時は、出来るだけ条件が許せば見ていきたいと管理者も職員も話された。その為の重度化や終末期に向けての方針を皆で話し合いはなされているが、基本的な方針として成文化されたものが無い。	○	出来る事と出来ない事はあると思われるが、家族の協力も得られ医療加算も得られる様に、医療体制を整備しながら出来るだけの対応をお願いしたい。重度化や終末期の対応の方針を成文化しそれを基本に家族とも話し合いをして頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症になっても、人間としての尊厳や権利は変わらない。入居者への呼びかけ一つにしても、その人の誇りを傷つけないように、本人と相談して決めている。個人情報については、保護法の主旨を理解し個人ファイルの取り扱いには注意している。又、個人情報利用通知書と、同意書を作り対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアは日々その人らしい暮らしが出来るように支援する事を職員はよく理解している。散歩、遠足、買物、歌、食事、家庭菜園など出来るだけ、その人のペースに合わせる努力をしている。特に意志表示の困難な入居者に対しては、顔の表情や動作など体全体から読み取る努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にお聞きしたら食事は一番の楽しみですと言われた。嗜好品などを把握しながら特別食を取り入れた。美味しく楽しい食事会になるよう職員も全員一緒に食事をし、さりげなくサポートをしている。高齢者だけに昔の行事につながる、おはぎや赤飯は喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な面だけではなく、出来るだけ好きな時間帯に気持ちよく入って頂くよう支援している。入浴を少しでも楽しめるように、時には菖蒲湯にしたりゆず湯にしたりしている。入浴を拒む人には上手に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	要介護度は進んでいるが一人ひとり昔取った杵柄、残された力を見出しながら、その人の生活を少しでも生き甲斐につながるよう、裁縫、家庭菜園など入居者の出来る事は一緒にお願している。又、荒浜や亘理都市公園などにもドライブしたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換にもなりストレス解消にもつながるので、出来るだけ外出するようにし、散歩、買物、ドライブ等をしている。ただ機能低下も進んで来ており、その人に合った外出を考えて頂きたい。	○	その人のその時に行きたい所に行ける様、無理なく一人ひとりの希望をかなえられるよう、一層の努力をお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者をはじめ職員は玄関に鍵をかける事の異常性、拘束性はよく理解している。地域との連携を考えながら見守りを玄関に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、消防署の指導の下に避難、連絡体制の確認などマニュアルにそって実施している。特に夜間を想定した避難訓練は住民の協力を頂きながらお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護予防をはじめ高齢者の栄養管理は、いかに大切か見直されている事を職員はよく理解している。一日の食事量、水分等もチェックし記録している。栄養バランスやカロリーは法人の栄養士の指導助言を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間をはじめ、浴室、台所など共用空間は明るく清潔であった。廊下の幅も充分あり車椅子での移動も楽である。廊下には入居者の楽しそうな生活の写真が見られたり、手作りの装飾品や民芸品も見られ居心地のよいものを感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の同意を得て個室を見せて頂いた。身の回りの物、ちゃぶ台、本箱には図書館から借りてきた本なども納まっていた。テレビもあり、人によっては位牌も持ってきている。ほっとする自分の居場所になっていた。		